

インターバンクの声（2017年12月6日）

米税制改革法案を巡っては、議会下院が上院との協議を行うことを決定し、上院も同じ目的のための投票を行う予定だが、その後簡単に事が進むのかは不透明で、期待感だけではドルの上昇が続かなくなってきた。また、米金利の上昇も来週12～13日に開催されるFOMCでの利上げは既に織り込まれており、ロシア疑惑も再燃しつつあるためなお更だ。株式市場でも利益確定による売りが強まったせいも、昨日のダウ平均は前日から100ドル超下げて終わっている。為替ストラテジストやアナリストの中には、年内だけでなく来年のドルの上昇も限定的になるとの見方を示す人も増えてきたようだ。こうした兆候が表れ始めると、得てして相場も反対に向かうことが多いので気を付けたい。来週のFOMCにしても織り込んでいるのは0.25%の利上げで、0.50%の利上げなら間違いなくドル買いだ。米議会も民主党が政府機関の閉鎖回避に向けた優先策についてトランプ大統領や共和党幹部と協議することに合意しており、予算を中心にした課題への合意が順調に進めば、政権に対する信頼度も大きく上がるはずだ。可能性は低いだろうが、意外なタイミングでのドル急上昇もあるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。